

カシミヤはこの2014年3月の秋シーズンから、原毛の高騰と円安で価格が上がります。

世の中、アベノミクスで景気が持ち直しているようですが、我々のところまで浸透するはもうちょっとかかるようです。でもすぐに反応するのが輸入価格です。カシミヤ人気に伴い原毛の需要アップと円安で高騰し、来年度からは2〜3割値上げせざるを得ません。どうぞご理解下さい。

もうすぐ春の女神という蝶のギフチョウやヒメギフチョウが出現する季節。北上工場から奥羽山脈へ分け入った旧沢内村。40年前に訪れたヒメギフ蝶の里を、昨年・一昨年と訪れましたが、逢えずじまいでした。

*** こんにちは 藤谷です ***

今日は休日のお話をしようと思います。先日、大学時代のアウトドア友達とハイキングに行きました。

神奈川県の大丸山です。大丸山は横浜で一番標高が高い山だそうです。とはいえ156・8メートルですが、毎朝同じ電車に乗る日常においては些細な非日常で新鮮さを感じることができそうです。

まず、金沢八景駅に行きます。大好きな京急線。座席が新幹線のように前向きについていて小旅行気分になります。車窓を眺めていると少しずつ景色が変わってきて、頭の中が少しずつ日常から離れていきます。

大丸山のハイキングコースは整備されていて歩きやすく感じました。エスケープルートも充実していて、疲れたら離脱できます。なおかつ鎌倉まで続くロングコースもあります。その日は地元の方がたまに散歩しているくらいで、人手は少ないのでした。友人が山岳ガイド並みに詳しいので、植物について、また、植物を使ったリースや飾りの作り方を話しながら歩きました。

木々に囲まれて落ち葉をふみふみ土の上を歩くのは幸せを感じます。高台から遠くの街を眺めて叫びました。幸運なことにリスも発見しました。ふわふわして可愛く感じました。そして、少し歩いて金沢動物園までゆきました。金沢動物園が一番驚いたのがインドサイです。サイは数種類いたのですが、大きく、体が鎧のような分厚く堅い皮膚に覆われ、それが体のい



ギフチョウ

たるところで折りたたまれ、重なり合い、その迫力には本当に圧倒されました。それに良く動いていたので見ごたえがありました。ということで、自然の中で深呼吸し、心が洗われた休日でした。皆さんも、素敵な休日をお過ごしください。

ミンクボンボン付マフラー

No. LUAS-2113 ¥12,600. → ¥5,900 (税込価格)



2月末までの期間限定価格です！
端にミンクのボンボンをあしらった高級感とエレガントさを醸し出しています。襟元のアクセントにおすすめです。約13cm X 120cm

メンズボーダーボートネックセーター

No. MUAP-2131 ¥63,000. - (税込価格)



カシミヤをカジュアルに。賢大な大人のリラックススタイル。お色はお選びいただけます。オーダーお待ちしております。

レディスヘンリーネックセーター

No. 1007-1001 ¥61,950. - (税込価格)



ナチュラルカラーと柔らかな風合いがポイントです。染めていないカシミヤ糸を使用し、ホワイト、ブラウン、ブラウン系の3色展開。オーダーお待ちしております。

【青山・表参道界限】 UTOはこんな街から発信しています

小川の上を猫があるく

キャットストリートの新田



青山通りの表参道の交差点から原宿へ向かうケヤキ並木がある表参道通りは東京でも有数のファッショナブルストリートで、グッチ、エンポリオアルマーニ、ルイビトンなどの世界有数のブランドの店や表参道ヒルズがあり終日にぎわっています。この通りはゆっくりの下り坂です。

ウインドーショッピングしながら下ってゆくと明治通りの交差点ですが、ここではここから登りになります。ここら辺は原宿と呼ばれるエリアで、ラフォーレ原宿、H&M、フォーエバー21などのファストファッションといわれる大型店が並び、歩行者の年齢もガクンと下がり若者ばかりです。そのまま直進すると原宿駅。その先が明治神宮です。明治通りの手前にある神宮前交番の横に小さな通りがあり、これが今若者に人気のあるキャットストリートです。

昔ここは渋谷川、それ以前は穂田川という呼び名の小さな川が流れていました。現在は暗渠になっていてその上を歩道にしているのです。江戸時代にここから眺めを描いた『穂田の水車』という葛飾北斎の富岳36景の版画もありま

このキャットストリートに関して、渋谷区のホームページの通りの名前由来として、『ネコの額みたい狭い通り』『ネコが多い』『ブラックキャットというブランドが生まれた土地』というのが記載されています。古い商店街があった頃、野良猫に餌をやる人が多く野良猫が多く住み着いていたのでこの名が付いたという説ですが、もうひとつ、狭い通りをファッショナブルのキャットウォークに例えて付いたという説もあるようです。お洒落な表現で、僕はこれが好きです。

表参道の広く整然とした通りのアダルトリッチに対して、こちらは狭く曲がりくねった通りにヤングカジュアルで種々雑多なお店が雑然と並ぶ楽しい通りです。

20年ぐらい前は穂田商店街という、戦前の昭和の審判と庶民的な生活感のある通りで、出店料も安く若者が小資本でお店を出して挑戦する登竜門のような処でしたが、最近では大手のお店が幅を利かせてリッチな通りになりつつありちよつと残念です。

キャットストリートと呼ばれる通りは香港にもイギリスにもあるそうです。

原宿のほうはよく最近にそう呼ばれるようになったのももちろんあなたの方が早いでしょう。香港にあるキャットストリートは魔羅街という処にあるそうです。この魔羅街は骨董街で、露店などで売られる商品を猫のような格好で品定めする格好からこんな名前が付いたそうです。ユニークな名前が素晴らしい発想力だと感じます。

もう一つのキャットストリートは、イギリスのオックスフォードにあり、ここが最も古いキャットストリートのようなのですが、同じキャットでもこちらは猫のキャットとは関係ないようです。

* カシミアとニットの話題 * (四十六)

カシミアの故郷へ

【中国・内モンゴルへ】

黄砂で白く霞む北京で国内線に乗り換え銀川に向かいます。銀川(インチョワン)はまさにデューブ・チャイナ。黄河上流の寧夏回族自治区の州都。宋の時代は西夏王国があった処です。この銀川で一泊し、ここからは車に乗り換え殆ど木が無い半砂漠の中を北の賀蘭(ホウラン)山脈に向かってひた走ります。孫悟空の火焔山を思わせる乾いた大地を走る約4時間。崩れた万里の長城を越え賀蘭山脈を越え内モンゴル自治区の阿拉善盟(アラシャンメイ)です。

阿拉善はカシミアを生業にするものにとっては憧れの地です。カシミアの原毛の中で世界最高峰と評価されるカシミアが採れるのがここ阿拉善なんです。

【カシミアとの出会い】

阿拉善は1500メートルの高地で、冬は氷点下40度以下、逆に夏は40度にもなる厳しい環境です。

5月、春の訪れが遅い高原にも新しい緑が芽生え一年でも最も良い季節。空気は澄み切って高原の乾いた風が吹いていますが太陽が眩しい。

山の裾を回り込んだ処でいきなりカシミアと出会いました。放牧の移動で道路を渡るところだったのビックリ。長年カシミアに逢うことを夢見て、遠い日本から飛んできてうんざりするほど車に揺られてここまで来たけど、あまりにもあつさりのお金いで拍子抜けのようですが車内は大騒ぎ。車を停めてもらって急遽撮影会です。

そろそろと群れて歩いていますが、撮影しようとするにつれそろそろと逃げてな

厳しい環境ではぐくまれるカシミア



2週間前に生れたベビー



カシミアの毛抜き・初体験



突然の出会いにビックリ



平毛の半砂漠が永遠と続きます

かなが良いアングルになってくれませんが、今年生れたばかりという可愛い子供は母親にまわりながら歩いている姿がとっても可愛い。

【カシミアと人間は共生していた!】

訪れた杜さんは親の代からのカシミア牧民。夫婦で広い半砂漠の中で生活しているが2人の娘は小学生で街の寄宿舎で生活し週末に帰ってくるそうです。

早速、採毛の毛梳きの様子を見せてもらいます。

実はここに来るまで一番の危惧が、『人間はカシミアの毛をもらって良いこととあるけど、カシミアは人間の犠牲になつていないのだろうか?』もしカシミアを虐待しているんだつたらカシミアを生業にすることは難しいかも知れない』と、真剣に危惧していました。それを確かめるためにはあるべきことまで来たと言つても過言ではありませんでした。

杜さんにそのことを確かめると、『人間がもたらうのは冬毛で、人間が獲らなくても自然に抜けたり岩などにこすりつて落ちてするので、その前に人間がもたらうですよ』と、心配無用でした。

それでも、手製の熊手のようなもので梳くので『カシミアは痛いのではないかと』心配でしたが、梳いている時のカシミアはとてもおとなしく、トロンとした目をしていました。『今から暑くなるのでこんな毛を付けてたらカシミアだってやりきれないよ、さっぱりして山に行くんだよ!カシミアも喜んでるよ』と、杜さんの言葉に納得。

実際にカシミアの毛梳きを見ることが出来、長い間の危惧が解消して、可愛いカシミアにあえて実り多い訪問でした。



忙中暇話・ニット屋のたわごと

親子行きたいときに親は無し

早いもので、今年一月で母が亡くなってから十年が経ちます。この通信の十一号(2004年春号)でその時のことを書きました。母の訃報に、焦って島原に帰ったこと。悲しむ暇もないぐらいい田舎の葬儀の忙しかつたことが、思い起こされます。

父はその前に他界していますが、母はとて明るくおしゃべりな愛すべき人でした。父はいつも静かで真面目で家族思いの、最も尊敬する人でした。そんな両親とは高校を卒業して上京して以来ほとんど話をする機会がありませんでした。

大正生まれの父は戦時中、中国の揚子江沿いの重慶や武漢で商売をしていたそうです。結構大きな店を構えていて、長崎と上海をよく行き来していたらしい。戦争が終わって貯金していた一万二千円が帰って来た、という話を叔父さんから聞いたことがあります。当時は七十円あれば立派な家が建つたという。自分の家は貧乏だけれど、金持だった時代もあったんだと子供心に思った記憶があります。

島原の田舎から単身、外地と言われる中国まで出掛けた行き、何店舗かの店を出すまでは相当の経緯があったと想像出来た。そして敗戦でそれまでの財産をすっかり無くし、引き上げてくるという、まさに想像を絶する経験をしたに違いないと思います。

父にとって波乱万丈の人生だったと想像出来る年齢と自分なりの経験を積んできた今、父が生存していれば是非聴きたいと思いが、父亡き今、苦勞話や自慢話を聴けないことが残念でなりません。父から話を聞いた頃はまだまだ幼くて、子供が喜ぶような、『池の畔にアヒルを何千羽も飼っていて、池に小舟を浮かべていると翌日小舟いっばいに卵を生んでいるんだよ』というような突拍子もない中国のスケールの大きい、面白い話をしてもらったことがあります。

20代の頃、『世界を見たい!』という思いで旅行屋になり、海外を飛び回っていました。一人で降り立ったアフリカ・ナイジェリアのラゴスでホテルアップが起って膝が震えるほどの恐怖を体験して、その後クーデターが起こり、せつかつくままにまたた仕事が出来なくなり、必死で国外に逃げ、外務省から救出指示まで出される事態になったこともあったけど、この無謀な性格も父親譲りだったのかも知れません。

会社を起して経営の難しさのただなかにいる今、父の体験がその時の思いを馳せたりアドバイスをもらいたいと切に思っています。そして何より親子行きたかった。自戒の念を持ってお伝えしたいと思います。『親子行きたいときに親は無し』



世界のホテルを旅する (四十六)

元旅行屋が経験した フィリピン

フエルト・アズール ビーチホテル

今度のホテルは、寒くなると必ず行きたくなくなる、僕にとっては何となく思い出深いホテルですが、すでに閉鎖されてしまいまる事が出来なくなつたとしても残念なホテルです。再開の願いを込めて紹介させていただきます。

東京から4時間。マニラ空港に降り立つと、どうしてこんなに沢山の人が空港に集まっているのか解りませんが、いつも人でいっぱいです。観光やショッピングには騒動もみならず、タクシーで目的地のフエルトアズールに向かいます。

田舎道を走ること1時間半でホテルに到着です。警備がものものしい遮断機の掛つたゲートを入ると、いままでの華やかとはかけ離れた別世界が待ちうけてくれます。

広大な敷地を有するフエルトアズール ビーチホテルは18ホールのゴルフコース、プライベートビーチ、屋内外テニスコート、ホリデークラブ、スカツシュ、2つのプール。そして370の客室が広い敷地に点在し、アメリカなどの高級リゾートに匹敵する設備です。

朝、ゆっくり起きたら、朝食が終わったら部屋からぶらぶらとゴルフのティーグラウンドへ。このコースはフィリピンオープンを開催するほどの素晴らしいコースなのにいつもガラガラ。『こんな空いていて採算合わないうらな?』と、余計なお世話の話をするがのんびりとブレイ。どんなに下手でも、誰にも気兼ねのいらぬゴルフです。

アウトは林間ですが、インコースの海沿いのコースが良いんです。海に向かって打ちおろすショートホールや岬の先端から浜越しに打ちおろすパー4の18番。このホールは200ヤード飛ばさないと砂浜という永遠のバンカー。ラウンドを終え、18番ホールで気が済むまでアプローチとパット、海岸でのバンカーの練習。まるで自分のコースのようです。

シャワーを浴びたら朝食を食べてプールでひと泳ぎ。涼しい部屋が木陰で本を読みながらのうたた寝。この読書してるのかうとうとしていながらなかなか緊張感のなさがたまりません。日が沈んだら生演奏を聴きながら今日獲れたという新鮮なシーフード料理に舌鼓。言葉の解らないテレビなんか消してすぐに寝てしまふ。ホテルから一歩も出ない1週間。天国みたいな休日。こんな御大層みたいなウアカンスは日本なら何万円かかるか分かりません。

マルコス財閥のホテルだと聞いたことがあります。これだけの施設ですらどこか買い取つてリニューアルするときつと素晴らしいリゾートホテルになると思います。

